（別紙様式4）

令和6年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東放学園専門学校	昭和54年4月1日	堀内　和人	〒　168-0063 （住所）　東京都杉並区和泉2-4-1 （電話）　03-3323-8531
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人東放学園	昭和54年4月1日	斉藤　晃	〒　168-0063 （住所）　東京都杉並区和泉2-4-1 （電話）　03-3323-8531

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	放送専門課程	放送芸術科	平成30(2018)年度	－	令和 1(2019)年度

学科の目的	テレビ番組の制作スタッフ・放送作家・タレントマネージャー等を育成する学科。企画立案・台本作成・リサーチ・撮影・編集等、番組制作の知識やスキルを習得する実践教育、コミュニケーション能力やビジネスマナー等を身につける人間教育、創造の感性や熱意を育む自立教育という三つの教育方針を定め、メディアとエンターテインメントの発展に寄与できる人材の育成を目的としている。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	情報処理技能検定、日本語ワープロ検定、日本漢字能力検定、映像音響処理技術者資格認定 中退率：5%

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,700 単位時間	615 単位時間	810 単位時間	480 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
240 人	235 人	12 人	5 %

就職等の状況			
■卒業者数（C）	：	133	人
■就職希望者数（D）	：	97	人
■就職者数（E）	：	97	人
■地元就職者数（F）		95	人
■就職率（E/D）		100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）		98	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）		73	%
■進学者数		2	人

■その他

業務委託契約12名、芸能活動1名、その他23名テレビ番組制作スタッフ、

（令和　　5 年度卒業者に関する令和４年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和5年度卒業生）

㈱日企、㈱シオン、㈱エスエスシステム、㈱ザ・ワークス、㈱studioK、㈱創輝、㈱よしもとブロードエンタテイメント、㈱クリーク・アンド・リバー社、㈱イースト、㈱SDR、㈱ホリプロほか

第三者による学校評価	
	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ
当該学科のホームページURL	https://www.tohogakuen.ac.jp/toho/art/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数			1,905 単位時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		285 単位時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数		120 単位時間
	うち必修授業時数		780 単位時間
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
	（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）		120 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数			－ 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		－ 単位
	うち企業等と連携した演習の授業時数		－ 単位
	うち必修授業時数		－ 単位
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	－ 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）		－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	3 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	7 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		10 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	2 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や威力の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、

①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。
②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。

以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、副校長、教務教育部長の他、就職指導や就職先企業の交渉等を主な業務とする学務管理部業務主任や学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。
学外委員からは当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。
また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年3月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
藤延　直道	協同組合　日本映像事業協会	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	①
森　俊文	一般社団法人　日本ポストプロダクション協会顧問	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	①
竹田　和史	株式会社 ブルーフラッグ　制作部	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	③
長谷川　一彦	株式会社東京サウンド・プロダクションビデオセンター編集課	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	③
冨田　健吾	株式会社　ブル　常務取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	③
市川　一弘	株式会社共立取締役　管理本部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	③
高津　勝仁	松竹衣装株式会社　営業本部　映像部部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	③
堀内　和人	東放学園専門学校　校長　教育課程編成委員会　委員長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	ー
笹原　恭	東放学園専門学校　教務教育部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	ー
木戸　司	東放学園専門学校　学務管理部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	ー
石原　秀一	東放学園専門学校　教務教育部　放送芸術科　学科主任	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日　（1年間）	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 （年間の開催数及び開催時期） 年2回 （9月、3月） （開催日時（実績）） 第1回　令和5年9月22日　14:00～16:00 第2回　令和6年3月29日　14:00～16:00
（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 ・昨年度に引き続き、企画力、制作意欲、プレゼンテーション技術を向上させる旨の求めに対し、報道や情報番組分野で活躍する講師を新たに招聘し、より実践に近い科目を開講した。またマネージメント分野に関しても、該当科目を1年次／2年次に分けることにより、現役で活躍する講師招聘の増加を図った。 ・上記に加え表現力を向上させる旨の求めに対し、文章能力の習熟度を向上させるため、ドラマ分野での執筆に関する科目の増加を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①企画力やクリエイティビティを伸ばす教育、番組ジャンルや職種を限定しない教育等を重点項目としている本学科において、これらの目的を達成するため、番組制作に企画から携わる企業、様々なジャンルの番組構成やシナリオ制作を担当している企業、技術的な見地で演出に関わる企業、かつ学生の就業先となり得る連携すべき企業を選択する事。

②「現場が必要とする人材」を最も効果的に育む事ができる、現場の一線で活躍している企業や外部講師から助言をいただき、それを積極的に反映させていく事。

③実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、学内の学科担当職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。

以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科1年次では、企画作成、台本作成、演出技法等の個別分野の実習・演習等で、各職種を担当する企業と連携し授業を担当いただき、学生が提出した課題や授業への意欲等を含めた学修成果の評価を実施していただいている。

2年次では、幅が広く奥行きがある実践力を高めるために、番組・作品制作系の総合的な実習・演習等で、各分野の一戦で活躍している企業と連携し授業を担当いただき、学修成果の評価を実施していただいている。

また、連携企業や外部講師との懇談会である講師会、各学科毎に同外部講師と学科職員・就職指導職員が参加して実施される講師分科会を通して、外部講師との意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習・演習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と教育内容・学校職員の質向上に努めている。

上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定常的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
映像クリエイティブ	「撮って見せる」を繰り返すことで、自主性を養い、映像ならではの表現法を体得します。	オフライン株式会社
ビジネスマナー	社会人として不可欠なビジネスマナーやコミュニケーションの重要性を認識し、好感度の高いスキルを体得します。	株式会社アルノ
制作ゼミ（グループ）	企画立案・撮影・ポスプロなどの制作過程におけるノウハウを習得するために、グループでオリジナルの映像作品を制作します。	株式会社ゼロステーション
制作ゼミ（個人）	企画立案・撮影・ポスプロなどの制作過程におけるノウハウを習得するために、個人でオリジナルの映像作品を制作します。	オフライン株式会社
ワンオペレーション制作	デジタル一眼レフカメラやスマートフォンなどを駆使しながら、一人でできる撮影～編集の技術を体得します。	株式会社Studio Popcorn

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校では、教員研修規程として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。		
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：	日本映像学会　第49回大会　テーマ「東アジア・情動・フェミニズム」	連携企業等：日本映像学会
期間：	令和5年6月10日	対象：放送芸術科　教員
内容	ジェンダー・フェミニズム批評にとって重要な「映像研究における女性・情動・身体」という問題を、東アジア文化圏という地政学的な角度から考察し、正しく理解する	
研修名：	日本映像事業協会 「トップクリエーターによるオンラインセミナー」	連携企業等：協同組合　日本映像事業協会
期間：	令和5年7月21日	対象：放送芸術科　教員
内容	数多くのバラエティ番組を手掛けたプロデューサーによる講演。「タレントバラエティの作り方」をテーマに、番組制作の手法を学ぶ	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	分かりやすい説明の仕方研修	連携企業等：株式会社インソース
期間：	令和5年7月3日	対象：東放学園　教員
内容	話の構造を視覚化することにより、「分かりにくい話」と「分かりやすい話」の違いを理解し説明力を高め、学生対応や教育手法の充実に活かす	
研修名：	主体的・対話的で深い学び〔アクティブラーニング〕の実践	連携企業等：公益社団法人 東京都私学財団
期間：	令和5年8月25日	対象：東放学園　教員
内容	子供の学びを起点とした多様な取組や調和のとれた実践に加えて、「深い学び」を実現するカリキュラムマネジメントを充実させるためのポイントについて学種横断的に理解する	
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：	エンタメ企画書の極意Vol.3	連携企業等：株式会社クリーク･アンド･リバー社
期間：	和6年9月27日	対象：放送芸術科　教員
内容	「マンガ原作の企画書」にスポットをあてて、編集者や漫画家との係わり方、企画時に必要な情報量、雑誌別に求められる企画の傾向など講師の経験を通して実践的なノウハウを学ぶ	
研修名：	コンテンツ東京2024	連携企業等：RX Japan株式会社
期間：	令和6年11月20日～22日	対象：放送芸術科　教員
内容	映像・CG制作から最新映像技術まで、あらゆるジャンルのエンターテイメント分野の最新事情を把握し、映像表現の方法や関連技術を理解する	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	専門学校向け 広報Webセミナー	連携企業等：株式会社進研アド
期間：	令和6年8月27日	対象：東放学園　教員
内容	高校現場における進路研究の最新動向や、大学志向が高まる中での効果的な広報事例を基に、学生募集広報の方向性を検討する	
研修名：	パワーポイント資料の作り方研修	連携企業等：株式会社インソース
期間：	令和6年9月17日	対象：東放学園　教員
内容	図解やアニメーションなど実践で使えるパワーポイントの機能を学び、より魅力的な資料が作成できるスキルを身に着ける	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
（法人の基本方針）
①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
③各校・各部門は、情報公開を念頭に揚げ、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
（2）学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システ
（3）教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許
（4）学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
（5）学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会
（6）教育環境	施設・設備、学外実習・インターンシップ等、防火・安全管理
（7）学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
（8）財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
（9）法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
（10）社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
評価結果を活用し教育活動および学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委員の意見やアドバイスを尊重し「即対応できること」「時間をかけて取り組むこと」などを検討・判断し可能な限り出来得ることから改善を行っている。（カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップなど）
【具体的な取り組み】
クラウド型学園ポータルサイトの活用などICT化を促進。実施・分析・検討・改善を繰り返しながら業務の効率化、学園サービスの充実を図り、新たな教育方法・学校運営を施行している。新たなカリキュラムの検討。日進月歩で変容していく関連業界の技術や働き方に合わせた授業内容や授業名を委員の意見の元、検討を重ね、実施に向けて準備をしている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
岸田 真	桜美林大学 芸術文化群 教授	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	教育・学校運営に関
田口 裕基	日本大学 鶴ヶ丘高校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	高校教諭
小川 尚人	一般社団法人 日本ポストプロダクション協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	就職先及び関連業
本多 晋	株式会社レック 撮影部	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	就職先及び関連業
山下 安奈		令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））
URL：　https://www.tohogakuen.ac.jp/about/valuation/
公表時期：　令和6年5月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
（2）各学科等の教育	募集学科・募集定員、放送芸術科、放送芸術科カリキュラム一覧、資格
（3）教職員	学園概要（校長名、教員数）
（4）キャリア教育・実践的職業教育	就職支援
（5）様々な教育活動・教育環境	部＆クラブ活動紹介、機材・設備
（6）学生の生活支援	留学生活支援、学生寮
（7）学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン、奨学制度（留学生）
（8）学校の財務	情報公開（財務情報）
（9）学校評価	情報公開（自己評価報告書、学校関係者評価報告書）
（10）国際連携の状況	留学生の方へ
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ） ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

URL：　https://www.tohogakuen.ac.jp/about/valuation/

公表時期：　令和6年5月

授業科目等の概要

	（放送専門課程 放送芸術科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1		○		業界特別講座Ⅰ	放送業界で活躍している様々な分野のプロフェッショナルを招聘して行う、特別講義です。	1後	15		○			○		○	○	
2		○		作品研究	いわゆる「ハリウッド映画」だけではない、良質な映画を鑑賞して見識を豊かにし、様々な見方や考え方を学びます。	1前	60		○			○			○	
3	○			就職講座Ⅰ	自己分析、履歴書作成、自己ＰＲ、企業研究、面接対策など、就職活動に不可欠な知識と技能を習得します。	1前	30		○			○		○		
4	○			就職講座Ⅱ	自己分析、履歴書作成、自己ＰＲ、企業研究、面接対策など、就職活動に不可欠な知識と技能を習得します。	1後	30		○			○		○		
5		○		タレントプロダクション論Ⅰ	タレント・アーティストを抱えている芸能プロダクションの仕組みとマネージャーの役割などを学びます。	1後	15		○			○		○	○	
6		○		ドラマ講座	ドラマ制作におけるスタッフの役割や、企画の立ち上げからオンエアまでの過程を学び、基礎知識を習得します。	1後	30		○			○		○		
7	○			番組制作基礎	番組制作の流れやスタッフの役割、撮影、編集などの基礎知識を学び、番組制作の実践に役立てます。	1前	30		○			○		○		
8		○		番組制作論	番組の構成や演出などを分析・解説し、ディレクターにとって不可欠な企画力や演出力を培います。	1後	30		○			○			○	
9	○			放送文章基礎	企画書、構成台本、シナリオ、ナレーション原稿など、放送に関わる様々な文章の書き方を学びます。	1前	30		○			○			○	
10		○		報道・情報番組講座	報道番組はどのように作られ、どのように放送に向かっていくのか、ネタ決めから放送に至るまでのフローを、講義だけでなく実践を交えながら学んでいきます。	1前	30		○			○			○	
11		○		Adobeソフト入門	Adobe社製の動画・グラフィックデザインソフトウエアの基本操作法を学び、それらの技術を駆使した作品を制作します。	1前	30				○	○			○	
12		○		インターネット配信入門	いわゆる「ネット配信」の現状やコンテンツの制作手法を学び、テレビ番組に固執しない、作品制作方法を習得します。	1前	15				○	○			○	○
13		○		映像クリエイティブ	「撮って見せる」を繰り返すことで、自主性を養い、映像ならではの表現法を体得します。	1後	60				○	○	○		○	○
14	○			映像表現	「映像」を通じて現実を表現するための、作品構成の様々な技法を学びながら、作品制作のノウハウを体得します。	1前	60			○		○		○		
15		○		シナリオ演習Ⅰ	ドラマのシナリオならではの特有の形式や書き方を学び、オリジナル作品を書き上げます。	1後	30			○		○			○	
16		○		スキルアップゼミⅠ	学内イベントのスタッフを通して、番組制作における進行/演出方法を学び、他セクションの仕事内容の理解を深めます。	1前後	30				○	○		○		
17	○			スタジオ番組制作	テレビスタジオで様々なジャンルの番組を制作し、進行や演出などスタジオワークの基礎を習得します。	1後	150			○		○		○		
18	○			ビジネスマナー	社会人として不可欠なビジネスマナーやコミュニケーションの重要性を認識し、好感度の高いスキルを体得します。	1後	30				○	○			○	○
19		○		PCスキルアップ	社会人として必須のスキルとなった書類作成ソフトとＤＴＰソフトの基本操作を習得します。	1前	30				○	○			○	
20		○		Premiere ProⅠ【基礎編】	業界標準のノンリニア編集システム「Premiere Pro」の基本操作を習得し、編集技法をマスターします。	1前	30				○	○			○	
21		○		Premiere ProⅡ【応用編】	「PremiereProⅠ」で学んだ知識とスキルを復習しながら、ディレクターとして必要なオフライン編集技術を習得します。	1後	30				○	○		○		
22		○		リサーチⅠ	企画書や台本の作成に必要な情報収集、調査をして、資料作成・プレゼンテーションを行います。	1前	30			○		○	○	○	○	
23	○			ロケーション撮影基礎	ロケーションを行うための下地とも言えるロケーションハンティングから、撮影許可の申請方法、必要な技術や知識を幅広く学びます。	1前	60				○	○	○	○		
24	○			ロケーション番組制作	企画立案・台本作成・撮影・編集などのプロセスを実践し、グループでオールロケーションの番組を制作します。	1後	90			○		○	○	○		
25		○		お笑い研究	今や、様々なジャンルの番組で活躍する「お笑い芸人」の、歴史と今を学びながら、人気番組の系譜を考察します。	2後	30		○			○			○	
26		○		業界特別講座Ⅱ	放送業界で活躍している様々な分野のプロフェッショナルを招聘して行う、特別講義です。	2前	15		○			○		○	○	
27		○		芸術鑑賞	ジャンルに拘らず、多くの映像作品を鑑賞し、クリエイターとしての感性を研ぎ澄ます。	2後	60		○			○		○		

28	○			就職講座Ⅲ	「就職講座Ⅰ・Ⅱ」の応用。間近に控えた就職活動に向け、「内定を勝ち取る」ためのノウハウを体得します。	2前	30		○			○		○			
29		○		タレントプロダクション論Ⅱ	様々なジャンルの現役マネージャーの講義から、芸能事務所の仕組みやマネージャーの仕事を理解し、マネジメントをする上で必要な知識やノウハウを身につけます。	2前	15		○			○		○	○		
30		○		著作権ビジネス	番組制作者には不可欠の知識である、著作権や著作隣接権・出版権などの法令やルールを学びます。	2前	30		○			○			○		
31		○		ドラマ企画演出	ドラマの企画書と台本の書き方を学び、面白い台本や魅力のある作品を制作するためのコツを習得します。	2前	30		○			○			○		
32		○		フォローアップゼミ	履歴書の見直しや個人面談などで就職活動をバックアップします。また、学内企業説明会も実施します。	2後	30		○			○		○			
33		○		プロデューサー講座	プロデューサーに求められる企画力を培うために「アイデアを形にする方法」や「より良い番組にする方法」を学びます。	2前	30		○			○			○		
34		○		マネージャー講座	マネージャーに求められるスキルや新人発掘、育成などの業務に欠かせないテクニックを考えていきます。	2後	15		○			○			○		
35		○		ワンオペレーション講座	個人が様々なコンテンツをネット公開している時代に対応する、「技」やワークフローを習得する。	2前	30		○			○			○		
36		○		脚本ゼミ	シーンがどのように構成されているのか、実際に放送されたドラマから紐解いていくことで脚本の書き方を学ぶと同時に、自分で脚本を書くことで表現方法について学びます。	2後	15				○	○		○			
37		○		構成台本演習	番組の原点は自己紹介。自分を魅力的に表現するコツを学んで、テレビ番組の企画構成に発展させます。	2前	30			○		○			○		
38		○		シナリオ演習Ⅱ	「シナリオ演習Ⅰ」の応用。映像化を意識し、魅力的なオリジナル作品を書き上げます。	2前	30			○		○			○		
39		○		スキルアップゼミⅡ	学内イベントのスタッフを通して、番組制作における進行/演出方法を学び、他セクションの仕事内容の理解を深めます。	2前後	30				○	○		○			
40		○		制作ゼミ（グループ）	企画立案・撮影・ポスプロなどの制作過程におけるノウハウを習得するために、グループでオリジナルの映像作品を制作します。	2前	120			○		○	○		○	○	
41		○		制作ゼミ（個人）	企画立案・撮影・ポスプロなどの制作過程におけるノウハウを習得するために、個人でオリジナルの映像作品を制作します。	2前	120			○		○	○		○	○	
42	○			番組制作演習	全学科合同で、音楽・情報・バラエティなど、様々なジャンルの番組を制作します。企画から放送までの全てのプロセスを実践します。	2前	240			○		○	○	○			
43		○		メディア制作	間近に迫る就職や即戦力に寄与する番組制作手法を体得します。	2後	60				○	○		○			
44		○		リサーチⅡ	「リサーチⅠ」の応用。即戦力となる「リサーチ力」と「プレゼンテーション能力」を習得します。	2後	30			○		○	○	○			
45		○		ワンオペレーション制作	デジタル一眼レフカメラやスマートフォンなどを駆使しながら、一人でできる撮影～編集の技術を体得します。	2後	60				○	○	○		○	○	
合計					45 科目							1905 単位（単位時間）					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①期日までの学費納入 ②必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	初回の授業（ガイダンス）で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。